

## 第 10 回防災文化講演会(平成 27 年度気仙沼市防災フォーラム)を開催しました (2016/01/28)

テーマ：防災教育、気仙沼市  
場所：気仙沼市中央公民館（宮城県気仙沼市）

1月28日（木）、気仙沼市中央公民館を会場として、気仙沼市と同教育委員会主催、災害科学国際研究所ほか2団体の共催による「平成27年度気仙沼市防災フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、当研究所が気仙沼市内で開催している防災文化講演会の第10回としての位置づけもあります。今回は、「津波防災研究の最前線」をテーマに、市内の中高生をはじめ学校関係者や自主防災組織等地域住民約160人参加により開催されました。

講演会は、防災教育の実践発表、基調講演2件、パネルディスカッションの3部構成で行われました。実践発表では、気仙沼市立階上中学校が地域と連携した防災教育の事例について、基調講演では、大阪市立大学・原口強准教授から「気仙沼湾の海底地形の成り立ちと津波防災」、関西大学・高橋智幸教授から「東日本大震災の反省、そしてこれからの津波防災」という題目で話題提供がありました。最後のパネルディスカッションでは、当研究所の佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）がコーディネーターをつとめ、1) 分かりやすい防災教育とは何か、2) 気仙沼における未来の防災のあり方をテーマに議論を進行しました。パネリストには、元気仙沼市職員、現気仙沼市職員、自主防災組織関係者、教育委員会、中学校教諭のほか、高校生2名、中学生2名と、多世代の代表が登壇し、学校・地域・社会・文化と多岐にわたる議論が展開されました。登壇した中学生と高校生も大人に負けない発言をしていました。また、会場の40名程度は市内の中高生であり、事例発表、基調講演、パネルディスカッションとも熱心にメモをとっていました。



会場の様子



パネルディスカッションの様子



佐藤翔輔助教